

2021年(令和3年)

第9号

(6月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会

発行責任者：渉外部長 田中规之

編集委員長：渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町 230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## 今月のことば ～観音さまを念ずる～ 西京支部主任 平林希予

校成6月号のお役を頂きました西京支部、地区主任の平林希予です。宜しくお願い致します。

コロナウイルスの感染拡大に伴い、教会に行かせて頂く機会もすっかり減ってしまった中、仏さまは、「自分と法をよりどころにしましょう」と教えて下さっているのだなと日々感じながら暮らしております。そんな中、今回のお役を頂き、自己を省みる機会を頂いた事に感謝致します。

コロナ禍での生活も約1年半になります。様々な生活に制限がある中ですが、我が家では、主人と私は毎日仕事に通い、高校2年生の長男、中学3年生の次男、小学4年生の長女も健康に育ってくれ、可愛い2匹の猫ちゃんに囲まれて、有難い日常を過ごさせて頂いてます。

さて、今月の会長先生のご法話では「観音さまを念ずる」を教えてください。前段では「自分の可能性を自覚する」です。観音さまというと、念じれば救われると信じてしまう人も多いですが、「観音さまとは自分自身の事に他ならず、自己の可能性を信じ、内なる観音の力を信じて一心に念じるとき、私たちの心には安心感とともに気力が湧いてくる、それが苦から救われるということなのです」とあります。

コロナウイルスの出現により、全人類が生命の危機にさらされ、経済的にも精神的にも苦しい状況になっています。私が生きてきた中で経験した事のない社会です。今まで当たり前になっていた人との会話や触れ合い、食事や外出などにも大きな制限がかけられ、又、子供達の学校行事もすっかりなくなってしまい、離れて住んでいる両親にも会いに行けなくなりました。私は医療従事者なので家族にも特に厳しく制限がかかります。けれども、今、この瞬間もコロナウイルスの影響で命の危険にさらされている人がいる事に間違いはありません。そう思うと、日頃、佼成会で教えて頂いていた事ではありますが、改めて、今こうして命を頂いている日常が本当に有り難く、自分が少しでも観音さまの様な柔らかな心で、家族と接したり、出会う一人一人

に笑顔で触れ合う事の大切さを実感します。コロナウイルスの収束を念じながらも、自分の出来る良い行いを精進する事が大切なのだと思わせて頂きます。

後段では観音経には「すべての人を救いたい」という観音さまと同じ心が私たちにもある事に気づかせることと、観音さまを念ずる事で今度は自分が1人の菩薩となって実践にふみだす事の大切さが説かれているとあります。

また法華経の新しい解釈でも、観世音菩薩さまの精神は人を導く立場にある人にとって、絶対に欠くことの出来ない資格だとあります。例えば「父母になる者は、子どもの身体や心が欲しているものに即応して、それに相應しい方法で自由自在に導いてやり、また自分は犠牲にしても、ひたすら子どもの幸福のためにつくします。」

「職場においては部下一人一人がどんな性格であるか、どれくらいの能力を持っているかという事だけでなく、どんな不満を持っているか、どんな悩みを持っているか、どんな希望を持っているかということまで、はっきり洞察でき、それにふさわしい方法によって指導し、動かしていけるようであってこそ、本当に部下を掌握し伸ばしてやり、したがって受け持ちの仕事を立てるに遂行し発展させられるというわけです。」とあります。

私は家庭では妻であり母であります。また職場では人を指導する立場です。観音さまのように、すべての人とはいかなくても、自分の身の回りの人に、心からの触れ合いが出来たらと思います。家庭では主人や子供達の様子を十分観察し、変化に気づけば必要な手立てができる、そして、明るく楽しい家庭になるよう、いつも笑顔で優しく触れ合えるような私にならせて頂きたいです。また職場ではスタッフの個性に応じた指導を見極め、気持ち良く働ける職場にしたいと思えます。

これからも観音さまを念じながら日々精進したいと思えます。ありがとうございました。

令和3年、私たちは「どこでも道場 祈り祈られ 笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/